



DAZED

CONFUSED JAPAN 11月号 2008年11月1日発行 第1巻第1号
スト & コンフューズド ジャパン

& CONFUSED JAPAN
FASHION & CULTURE from LONDON & TOKYO

NOVEMBER #72
1500YEN

PHOTOGRAPHY BY HEDI SLIMANE

SPECIAL FEATURE
THOMAS ENGEL HART
PRADA
RAF SIMONS

FASHION + MUSIC SPECIAL

エディ・スリマンシューティング in 東京
東京クラブキッズストーリー
宇川直宏 最新音楽プロジェクト

音楽デザイナー9組が作る MUSIC ACCESSORIES PROJECT
MARIA FRANCESCA PEPE / JAMES LONG AND MORE

横浜トリエンナーレ2008 参加アーティストインタビュー
TERENCE KOH / CHRISTIAN HOLSTAD / MIRANDA JULY AND MORE

特別限定付録
HEDI SLIMANE TOKYO
エディ・スリマン撮影による最新フォトブック
全60ページに渡るスケートパーク&スケーター少年のドキュメンタリー集

KUNSWIDANANTO A.K.A. JOMPET

「様々な経験を経て、僕は“新しい戦争”に出会ったんだ」



楽器、カメラ、パソコンなど、様々なローテク機器とハイテク機器を用いてパフォーマンスを行うアーティスト、クスイダナント a.k.a. ジョンベット。'03年から継続する参加型プロジェクト「他人になる1時間」は、カメラが付いたヘッドギアを参加者が被り、そこから映し出される視覚情報を通して、他人のプライバシーや欲望を覗き見るといった作品だった。

彼が今回発表したのは、インドネシア・ジャワ島の伝統的な軍隊ユニフォームをメインに構成した空間インスタレーション「ファンタスマゴリア」。壁に映し出される映像とサウンドに合わせ、機械仕掛けの鼓笛隊が太鼓をたたく……。オートマティックに進んでいく映像は、ジャワ人と機械が初めて出会った瞬間を映した。機械音が静かに響く空間で、人工的に奏でられるドラムリズムが、不気味かつどこかファニーな空間を生み出していた。

「この作品のインスピレーション源となったのは、ジャワの伝統的な軍隊ユニフォームなんだけど、見てもらえばわかるように、その制服には様々な国の文化要素が取り入れられている。例えば、帽子はヨーロッパの影響が強いし、洋服はジャワの伝統的なテイストを強く含んでいる。ブーツはジャワには存在しなかったか

ら、西洋的な影響を受けてるし、様々なアクセサリーには色々なジャワのシンボルが含まれているんだ。そんなコスチュームからわかるのは、ジャワの人々は様々な人と出会い、多様な国の文化を吸収してきた歴史を象徴しているってことだよ」。

9月13日には、ジャワ人のダンサー、ユティ・アフマッド・タジュディンとともに会場内にてパフォーマンスも披露したジョンベット。いずれの作品においても、「他者の眼差しによって自己を見つめる」というジャワの人々が歴史的に強いられてきた慣習を踏まえながら、社会における自己と他者の関係を問い直すといったコンセプトに基づいている。

「僕はジャワの人々が、他国の文化からどのように自国を守ってきたかについて、とてもインスパイアされるんだ。ジャワは他国と国交を持つ長い歴史がある。ムスリム、中国、ドイツのような様々な文化との関係を持ってきたんだ。そのようなカルチャーの中で、ジャワ人は戦争を拒絶したり、乗り越えてきたり、また、戦争に妥協したり、その理由について論議してきた経験を持っている。僕は、自分の経験をみんなと共有していきたい。僕には他人とコンタクトを続けている長い歴史があるからね。だから、今回もジャワの伝統的な

軍服を用いて、ジャワの人々の長い歴史を表現したかったんだよ」。

今回の作品で用いられたジャワの伝統的な軍服。人々が最後に、この軍服に袖を通したのは戦争が終わった時でもある。ある種、平和のシンボルとも呼べると定義するジョンベットだが、こう付け加えた。

「そのような経験を経て、僕は“新しい戦争”に出会ったんだ。世界が開けてくるにつれ、グローバル化が進むにつれ、違う文化が影響し合うことが頻繁に起こるようになってきた。その中で、僕は自分たちのアイデンティティを守りたいと思う気持ちを持つと同時に、広い視野で様々なことを受け入れたいと思う気持ちも強くなる。その葛藤なんだよ。影響し合うことが、バランスのとれたことだとは思わない。フェアではないからね。それが今、僕らが直面する“新しい戦争”なんだよ」。

クスイダナント a.k.a. ジョンベット

'76年、インドネシア・ジャワ州ジャカルタ生まれ。多様なガジェット機器を駆使し、ユーモアとメッセージ性に富んだパフォーマンス、映像作品、インスタレーションを制作する。05年には、東京アジア美術トリエンナーレにも参加し、サウンドアーティストとのコラボレーション作品を発表した。